

質問に対する回答について

件名	秋田自動車道 和賀仙人トンネル東工事
----	--------------------

番号	対象ファイル名等	対象ページ	質 問 事 項	回 答
1	数量明細表	1/24頁	土工工事において、道路掘削+捨土掘削・盛土工のうち大きい値が27,813m ³ となる本工事は「小規模」工事と考えてよろしいでしょうか。ご教示をお願いします。	令和8年9月1日掲載の「質問書に関する回答について⑮」質問番号1に対する回答のとおりです。
2	特記仕様書	69頁	28-21-（4）2）に設置後は別途工事に引き渡すとある事から湯沢IC資機材置場から現場までの片道運搬費を本工事で計上すると考えてよろしいでしょうか。ご教示をお願いします。	そのとおりです。 なお、交付図書に誤りがありましたので後日訂正いたします。
3	貸与資料		トンネル施工設備計画の仮設備計画(工事用機械設備・二次側電力設備・汚濁水処理設備)について資料の公表をお願いします。	仮設備計画については、閲覧資料01_設計報告書（トンネル）2-64及び設計図【参考図：トンネル】26/34よりご確認ください。
4	特記仕様書、割掛対象表参考内訳書		積算要領 7編 土工 1 適用 注3) 工事規模 から 全切土量 約2万m ³ により小規模の工事とし 0.6m ³ バックホー、20 t ブルを主体として計画を考えています。しかし、「割掛対象表参考内訳書」分解組立では、1.0m ³ バックホー、32 t リップブルをお考えです。特記仕様書等から読み取れない、条件が 別にあるのでしょうか、ご教示ください。	質問番号 1 のとおりです。
5	①設計図（7/9）【参考図：トンネル】	①20～21/34頁	避難連絡坑（車道用）に設置する防護扉について、「拡幅車道用」を設置する箇所と設置撤去回数が分かりませんのでご教示ください。	避難連絡坑の施工完了後に設置する仮設物であり、他工事にて撤去するため設置回数は 1 回となります。
6	①特記仕様書	①17～18、52～54頁	計測工Cの設置機器について、特記53頁に「工期末に、監督員へ引き渡すものとする」とありますが、特記17～18頁の18-1発生する残存物件と引渡し方法には計測機器に関する記載がありません。計測工Cの設置機器の引渡し場所をご教示願います。	現地にて引き渡すものとします。

7	01_特記仕様書 02_金抜設計書 小荒沢地区道路詳細設計 03_数量計算書（本線） 数量総括表(1/2)	29頁 B-1頁 1頁目	軟岩の区分について、特記仕様書では「土質区分：軟岩A」と記載がありますが、数量計算書では軟岩Aと軟岩Bが計上されています。どちらが正と考えてよろしいでしょうか。ご教示願います。	特記仕様書28-2-1道路掘削（1）種別のとおりです。
8	02_金抜設計書 05_割掛対象表参考内訳書	B-1頁 1頁	道路掘削および捨土掘削の施工数量による、工事規模の分類について、設計数量は道路掘削が土砂：15,465m ³ 、軟岩：5,138m ³ 、捨土掘削が土砂：7,210m ³ 、合計：27,813m ³ で50,000m ³ 未満のため、小規模の工事に該当すると思われます。 一方、割掛の機械分解組立費の項目で計上されている機械は、積算基準に基づいた場合、通常の工事で使用されているものになっています。 本工事は小規模工事ではなく通常の工事として考えられているという認識でよろしいでしょうか。ご教示願います。	質問番号 1 のとおりです。
9	05_割掛対象表参考内訳書	3頁	インバート栈橋設備費について、設置・撤去費を含むと記載があります。トンネルの施工を進める上でインバート栈橋は移設が必要となると思われますが移設費用は本項目に含まれると考えてよろしいでしょうか。また、その場合、移設回数は何回を見込まれているのでしょうか。ご教示願います。	割掛対象表参考内訳書に関する質問についてはお答えできません。 なお、交付図書に誤りがありましたので後日訂正いたします。
10	05_割掛対象表参考内訳書	3頁	インバート栈橋設備費について、「材料費は全損扱いとし」とありますが、撤去後のスクラップ費用等は本項目に含まれるのでしょうか。ご教示願います。	令和8年9月7日掲載の「質問書に対する回答について⑩」質問番号17に対する回答のとおりです。
11	06_2_設計図【トンネル：本坑】	88,104頁	非常用施設箱抜工図（16）には「D I -a（H）-B」パターンに記載がありますが、非常用施設割付図（4）には、「D I -a（H）-K1」パターンの箇所数の記載がありません。「D I -a（H）-K1」パターンを追記した資料をご提示願います。	非常用施設割付図のD I -a（H）-K1パターンについては、交付図書にて後日お示しいたします。
12	06_2_設計図【トンネル：本坑】	88頁	非常用施設割付図（4）にて、「D I -a（H）-B」パターンの箇所数の記載がありますが、該当パターンは本工事の施工範囲外と思われます。ご確認をお願いいたします。	そのとおりです。 なお、交付図書に誤りがありましたので後日訂正いたします。

13	①06_2_設計図【トンネル：本坑】 ②06_5_設計図【本線：附帯工】	①116頁 ②8頁	「P (Po-B) ・φ0.40 (Sd-B) 」、 「P (Po-B) ・φ0.60 (Sd-B) 」について、それぞれ想定されている掘削深をご教示願います。	用排水構造物標準設計図集208-1、302及び305より掘削深をご算出ください。
14	06_4_設計図【本線：のり面工】	36頁	コンクリート基礎工Eにおける型わくの数量(3.34m ²)について、図では下部の高さが1500mmとの明記がありますが、計算上ではコンクリート基礎工Dと同じ2250mmとして算出されているように見受けられます。ご確認をお願いいたします。	正しくは高さ1500mmです。 なお、図書に誤りがありましたので後日訂正いたします。
15	06_5_設計図【本線：附帯工】	3,5頁	図中に表示の「立入防止柵基礎箱抜き」は土押え工に含まれていると考えてよろしいでしょうか。ご教示願います。	そのとおりです。
16	06_7_設計図【参考図：トンネル】	10頁	加背割図にて、「CⅡ-c-B3-S」パターンの記載がございません。「CⅡ-c-B3-S」パターンの加背割図をご提示願います。	令和8年9月7日掲載の「質問書に関する回答について⑩」質問番号12に対する回答のとおりです。
17	06_7_設計図【参考図：トンネル】	34頁	既設(避難坑・避難連絡坑)取壊し標準断面図には既設床版撤去の記載がございません。床版は撤去済みという認識でよろしいでしょうか。ご教示願います。	既設避難坑及び避難連絡坑の既設床版撤去は必要となります。 なお、交付図書に誤りがありましたので後日訂正いたします。